

Workshop on Workshop

～ワークショップの意味と仕組みを考えるワークショップ～

日時:2008/11/9 13:00～16:30

場所:東京大学福武ホール

第1部 パネルディスカッション～クロスオーバーしていくワークショップ～

「クロスオーバーするワークショップ」というタイトルのもと平田オリザ+荻宿俊文+吉野さつきがパネルディスカッションを行いました。アート(演劇)からのワークショップについてを平田さんが、教育(メディア)からのワークショップを荻宿さんが、そして、ワークショップコーディネータとしての立場からの吉野さんが、それぞれクロスオーバーしていくディスカッションになりました。



・言葉から受けるイメージ、言葉がさすものは人それぞれバラバラなんだ。好きな物もバラバラ。みんな違ってみんな良いのではなく、みんな違うから大変だ。大変だからどうしようかと考える。分からない事がたくさんあるという原理がある。相手の事がよくわからない、自分の事もよくわからない。その断絶と、でも人間は 集団で生きていけない。そのもどかしさからコミュニケーションを必要とする。(平田)

・学校で学習を諦めてしまった人とか、学習というのはもっと参加していく物かなと思って、今は学習に意欲が薄れてしまっている。そういう人に向けて、自分の思っている事を外にだしていく事が大事になる。小学校中学校では、問いには必ず一つの答えがあるとされていて、それを答えなければならない。でも、答えはそれぞれの子どもが持っている。それぞれの持っているものが答えになるような問いを考えて欲しい。(荻宿)

・ワークショップをやるアーティストは自分の言葉を磨かなければならないと思った。それを2年間考えてきた。ワークショップをやるアーティストにとって良い機会だと考える。説明する相手が誰であれ、一緒に気づいてもらえるために、お互いの領域を超えて、新しいコミュニティが結果的に生まれてくる。(吉野)

第2部 ミニワークショップ～まさにワークショップオンワークショップ～

「まさにワークショップオンワークショップ」として、「演劇ワークショップ」「メディアワークショップ」「解説ワークショップ」の3グループに分かれてのワークショップを行いました。



【演劇ワークショップ】(柏木陽)

演劇ワークショップでは、「会話の場面を作ってみる」というテーマのもとに、2人1組になり、それぞれの関係性の中の会話の場面を作りました。恋人同士、友人、夫婦などさまざまでした。

【メディアワークショップ】(高尾美沙子)

「握手からはじまるストーリー」というテーマにあわせて作った作品は、まるで普通に撮影したかのように見えるものから、逆再生ならではのびっくり映像などさまざまでした。



【解説ワークショップ】(荻宿俊文×吉野さつき)

解説ワークショップでは、演劇・メディアワークショップそれぞれの様子をリアルタイムでプロジェクションし、どんな意味と仕組みが隠されているのかなど解説を行いました。2つのワークショップの動きの共通点や違い、またファシリテーターの声のトーンの変化についての解説が行われました。

第3部 グループディスカッション



解説ワークショップを体験した人、演劇ワークショップを体験した人、メディアワークショップを体験した人たちがグループをつくり、ディスカッションを行いました。「あの時は、本当はどんなことが起こっていたのか?」「どんな解説がされていたのか?」など、それぞれ違った体験をしたからこそその話題で、会場は盛り上がりました。